

電源立地地域温排水対策調査[※]

御坊火力発電所周辺における磯根漁場開発調査

金盛 浩吉・堀木 信男・竹内 照文
 芳養 晴雄・金丸 誠司・小川 満也
 小久保友義

目 的

産業的有用種の増産には餌生物をめぐる生態的關係の把握が必要である。御坊火力発電所建設(60万kW 3基設置)に伴う海洋環境の変化は食物連鎖を通じて、高次へと移行していく。即ち、海洋環境の分布構造や機能を生物の生活様式や低次生産との関連において明らかにし、環境収容力を把握することから発電所周辺水域における産業的有用種の増産手法をみいだそうとするものである。

調 査 方 法

調査項目

1. 無機環境調査
 - (1) 水温・塩分、(2)魚卵・稚仔、(3)温排水拡散調査
2. 環境生物調査
 - (1)プランクトン、(2)魚卵・稚仔、(3)ベントス
3. 藻場生産機構調査
 - (1)カジメ、アラメに付着するベントス調査
 - (2)磯根漁場における動植物相調査
4. 漁業生物調査
 - (1)アワビ類
 - 1) アワビ類、トコブシ、サザエの漁獲量の調査、2) 標本漁船によるアワビ漁場の利用状況と生息分布調査、3) アワビ稚貝放流調査、4) アワビの標識放流調査
 - (2)イセエビ
 - 1) プエルルス調査、2) 標識放流調査、3) 標本漁船によるイセエビ漁場の利用状況と生息分布調査
 - (3)魚類
 - 1) イセエビ刺網による漁獲物調査

以上の各調査項目の調査海域および調査点(58~61年度)は図1のとおりである。

調 査 結 果

御坊火力発電所建設に伴う環境変化が周辺海域の生物にどのような影響を及ぼしているかの検討を行ったが、今回の調査では目立った環境の変化はみられなかった。なお、詳細な調査結果については「電源立地地域温排水対策調査報告書(昭和61年度)、御坊火力発電所周辺における磯根

※ 電源立地地域温排水対策調査費による。

